※令和４年度以降入学生用

学校番号	210

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学看護系演習	単位数	５単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	新課程 3TRIAL 数学Ⅰ+A　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

① 授業に必要なものは忘れてはいけない。隣の席の生徒に見せてもらうことは許可しない。
② 毎回の授業で課される宿題は，大切な授業の復習となるのでしっかりと取り組むこと。わからない問題については，クラス内で理解している者に尋ねて解決するのが一番良いが，教科担当者に質問に来るのも良い。内容を納得することが重要。
③ 授業内容の理解を助けるためには，授業前の予習が必要である。
④ 問題を解く際には，図や途中式など，解答に至るまでの経過を必ず明記する。
⑤ どうしても解らない問題（目安として，10 分考えても解答の方針がたたないもの）については，解答を見ても構わない。解答を読んで，理解し，もう一度何も見ないで自分で解いてみる。

2　学習の到達目標

(1) 数学Ⅰと数学 A の応用的な学習事項について、全体の復習にとどまらず、さらに内容を掘り下げ、理解を深める。
(2) 基礎的知識の習得と技能の習熟をはかり，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、応用力を養う。入試問題にも対応できるようにする。
(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。	事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている	数学の論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的根拠に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1学期	数学Ⅰ	・数と式 ・実数 ・1 次不等式 ・関数	a：：簡単な無理数についての四則演算ができる。また、数を実数まで拡張することを理解している。 b：不等式の性質を基にして、1次不等式の解き方を考察することができる。 c：問題に対して式の展開や因数分解などを活用し、工夫して解決しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
	数学A	・場合の数と確率	a：事象に応じて、樹形図、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。また、樹形図、和の法則、積の法則の利用場面を理解している。 b：条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 c：順列・組合せの違いに興味・関心をもち、それらを活用しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
2学期	数学Ⅰ	・2 次関数 ・図形の計量	a：与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。また、三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身につけている。 b：２次関数のグラフと x 軸の位置関係を、２次方程式の解に対応させて考察することができる。 C：２次関数のグラフとｘ軸の位置関係を基に、２次不等式の解について考察しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※令和４年度以降入学生用

	数学A	・図形の性質	a: 円に内接する四角形に関する定理を活用して角の大きさや線分の長さを求めることができる。また、円の接線の性質を利用して線分の長さを求めることができる。 b: 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる C： 三角形の外心・内心・重心に関する性質に興味を示し、積極的にそれらを活用しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
3学期	数学I	・データの分析	a: 分散や標準偏差の値を、その定義に基づいて正しく計算することができる。 b:箱ひげ図や分散の値から、データの散らばり具合について考察することができる。 c: データの個数が多い資料を、どのようにして分析・整理すればよいかを考査しようとする。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察
	数学A	・数学と人間の活動	a: ユークリッドの互除法を用いて、2 数の最大公約数を求めることができる。 b: ユークリッドの互除法や、互いに素な 2 数の性質を用いて、1 次不定方程式の解き方について、正しく考察することができる。 c: 最大公約数や最小公倍数の性質について興味・関心を示し、活用しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 小テスト 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度